



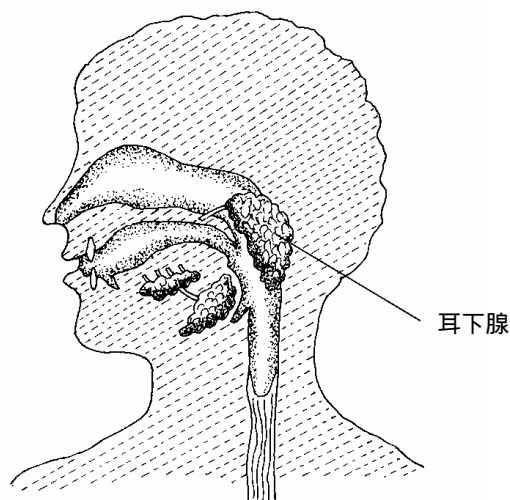
「おたふくかぜ」って、どんなかぜ

耳下腺にばい菌が入るのが原因

「おたふくかぜ」は、耳の少し下のところにある、耳下腺という、つばをつくったり出したりするところに、ばい菌が入って、はれてしまう病気で、正式には、「流行性耳下腺炎」といいます。

「おたふくかぜ」は、ばい菌（ウイルス）が、つばなどといっしょに、口から口へ飛んで、病気がうつっていく伝染病です。

昔からある、「おたふく」というお面のように、ほおがふくらむことから、この名前がつけました。



「おたふくかぜ」になると

「おたふくかぜ」のばい菌が体に入ると、2～3週間で熱が出て、食べ物をかむと、耳のまわりが痛くなったり、気分が悪くなったりします。そして、まず片方のほっぺたがはれて、1～2日くらいで、もう片方のほっぺたが、はれてくることもあります。

「おたふくかぜ」は、2週間くらい続いたあと、なおります。そして、一度かかると、もう、かかることはありません。また、予防注射があるので、それを打っておくと、かからないですみます。（監修・保志 宏）

